

ドイツ語（初級 A） 第 13 回 従属の接続詞

範囲：教科書第 8 課 C（S. 34-35）

《今回の基本例文》

46. Ich kann keine Ferienreise machen, weil ich sparen muss. (CD48-2)

私は節約しなければならないので、休暇の旅行はできない。

[従属の接続詞を用いた副文（主文先頭型）]

47. Wenn du es mir morgen zurückgibst, leihe ich dir das Buch. (CD49-3)

明日に返してくれるなら、私は君にその本を貸すよ。

[従属の接続詞を用いた副文（副文先頭型）]

48. Wissen Sie, wer der Herr da ist? (CD50-1)

そこにおいでの方の紳士がどなたか、あなたをご存じですか？

[間接疑問文]

I 従属の接続詞を用いた副文

C. 従属の接続詞 (S. 34)

1 従属の接続詞

◇ ドイツ語でも英語と同じく、**名詞節、副詞節、関係代名詞節**などの**副文**が存在し、名詞節と副詞節は**従属の接続詞**に、関係代名詞節は関係代名詞（⇒教科書 S. 60）に導かれる。

* 言うまでもなく、接続詞には並列の接続詞（⇒教科書 S. 25）と従属の接続詞がある。

◇ 従属の接続詞としては、以下のものを覚える必要がある。

機能	従属の接続詞	英語	意味
副詞節	als	when	～したとき
	bevor	before	～する前
	bis	till, until	～するまで
	da	because, since	～する以上
	damit	so that	～するように
	indem	while	～しながら
	obwohl	though, although	～にもかかわらず
	sobald	as soon as	～するや否や
	während	while	～するあいだ
	weil	because	～するので
wenn	when, if	～するとき、～するなら	
名詞節	dass	that	～すること
	ob	if, whether	～するかどうか

◇ dass と ob は**名詞節**を導く。dass 節（「～すること」、that 節に相当）や ob 節（「～するかどうか」、if 節や whether 節に相当）は、名詞と同じく文全体の主語や目的語になりうる。

◇ それ以外のすべては**副詞節**を導く。

- ・理由をあらわす副詞節を導く従属の接続詞には da と weil があるが、da は聞き手も知っている理由を言うのに対し、weil は一般に論理的な因果関係を言う。
- ・時をあらわす副詞節を導く従属の接続詞には als と wenn があるが、現在および未来には wenn を、過去には als を用いる。wenn の場合、「～するならば」という条件文（if 節に相当）もつくる。

■ 従属の接続詞を用いた副文の語順

定動詞後置の原則 = 定動詞を副文末に持ってくる

◇ 従属の接続詞を用いた副文では、定動詞は文末に置かれる。このため、主語－目的語－動詞という、日本語に近い語順が現れる。図示すれば、

文頭	文中	文末
接続詞	…	動詞（現在人称変化）

◇ 主文を副文に転換すると、以下の通りになる。

Er spricht Deutsch.

彼はドイツ語を話す。

→ Weil er Deutsch spricht,

彼はドイツ語を話すので、…

* 定動詞を副文末に移動する。

Er kann Deutsch sprechen.

彼はドイツ語を話すことができる。

→ Weil er Deutsch sprechen kann,

彼はドイツ語を話すことができるので、…

* 語法の助動詞を含む文の場合、定動詞である助動詞を副文末に移動すればよい。

◇ 副文内の定動詞が分離動詞である場合、分離動詞も文末に移動するが、

- ・前綴りと基礎動詞は分離せず一続きに書く。
- ・基礎動詞は主語に合わせて人称変化する。

Er bringt eine Flasche Wein mit.

彼はワインを 1 ビン持ってくる。

→ Weil er eine Flasche Wein mitbringt,

彼はワインを 1 ビン持ってくるので、…

* ここで mit と bringt のあいだにスペースを入れてはいけない。

◇ これまで登場した語順を整理すると、

主文	定動詞第 2 位：定動詞は 2 番目に。
主文（決定疑問文）	定動詞第 1 位：定動詞は 1 番目に。
副文の内部	定動詞後置：定動詞は副文末に。

■ 主文と副文の位置関係

文全体 (=主文) : 定動詞第 2 位
副文 : 文の 1 要素 (名詞節なら 1 個の名詞、副詞節なら 1 個の副詞) として扱う

- ◇ 副文を含んだ文の場合、文全体 (=主文) に副文を組み込むかたちとなる。そのとき、
- ・ 名詞節 : 名詞 1 個と同じ
 - ・ 副詞節 : 副詞 1 個と同じ
 - ・ 文全体 (=主文) では定動詞第 2 位の原則が働く (⇒教科書 S. 14)

という扱いになる。

- ◇ 副文とそれ以外の部分は読点「,」で区切るのが普通。

《名詞節の副文を用いた文全体の語順》

	第 2 位			
主語	定動詞	副文		(名詞節が 目的語 である場合)
副文	定動詞	目的語		(名詞節が 主語 である場合)
Es	定動詞	目的語	副文	(名詞節が 主語 で、 仮主語 es を使用する場合)

* いずれも 副文 の内部では定動詞後置。

- ◇ **名詞節**の副文を目的語とする文は、副文を文末におけばよい。

Ich glaube, dass er Deutsch spricht.

私は、彼はドイツ語を話すと思う。

* glaube が文全体の定動詞、spricht が副文 (dass 節) の定動詞。dass er Deutsch spricht が文全体の目的語で、名詞 1 個と同じ扱い。

** glauben は他動詞「(4 格) を信じる」で、ich glaube, dass ...は *I think that ...* のように使われる。

- ◇ **名詞節**の副文を主語とする文で、主語を文頭に出した場合、第 2 位にはもちろん文全体の定動詞が来る。

i) Dass du endlich kommst, freut mich sehr.

君がとうとう来てくれることが、非常に私を喜ばせる。

* freut が文全体の定動詞、kommst が副文 (dass 節) の定動詞。Dass du endlich kommst が文全体の主語で、名詞 1 つと同じ扱い。主語が dass 節である場合、動詞の変化は三人称単数扱いとなる (英語の *that* 節などと同じ)。

** freuen は他動詞「(4 格) を喜ばせる」。

- ◇ ただし、名詞節の副文を主語とする文では、副文を先取りする**仮主語 es**を用い、名詞節自体はうしろにまわすこともできる (英語の仮主語 *it* と同じ)。 (⇒教科書 S. 67)

i) Dass du endlich kommst, freut mich sehr.

= i) Es freut mich sehr, dass du endlich kommst.

君がとうとう来てくれることが、非常に私を喜ばせる。(私はとてもうれしい、君がとうとう来てくれることが。)

* 下の文 (教科書 S. 35 の例文 i) の本来の主語は、dass du endlich kommst という名詞節にあたる。

** 長い名詞節であればあるほど、仮主語を用いる文体が好まれる。

《副詞節の副文を用いた文全体の語順》

第 2 位

主語	定動詞	…	,	副文	(副文を文のうしろにまわす場合)
副文	定動詞	主語	…		(副文を文頭に出す場合)

* いずれも **副文** の内部では定動詞後置。

◇ **副詞節**の副文を文のうしろにまわす場合は、単に文全体と副文を読点で区切ればよい(英語と同じ)。

ii) Er wohnt auf dem Land, weil es dort ruhig ist.

彼は田舎に住んでいる、そこは静かだから。

* wohnt が文全体の定動詞、ist が副文 (weil 節) の定動詞。weil es dort ruhig ist 全体が副詞 1 つと同じ扱い。

** es は音などを示すときの主語。英語の *it* と同じ。(⇒教科書 S. 58)

*** Land (*n.*) は「土地」だが、転じて「田舎」の意味にもなる。

iii) Ich schreibe dir sofort, wenn ich in Paris ankomme.

君にすぐに手紙を書くよ、私がパリに着いたら。

* schreibe が文全体の定動詞、ankomme が副文 (wenn 節) の定動詞。wenn ich in Paris ankomme 全体が副詞 1 つと同じ扱い。

** この schreiben は自動詞で、「〈3 格〉に手紙を書く」。

*** ankomme は分離動詞の ankommen。この ankomme には、「副文内の定動詞が分離動詞である場合、前綴りと基礎動詞は分離せず一続きに書く」規則が適用されている。

◇ 一方、**副詞節**の副文を文頭に出す場合、副詞 1 個が文頭に来たのと同じことになるので、第 2 位には文全体の定動詞を持って来なければならない。

Wenn es regnet, bleiben wir zu Haus.

← Wir bleiben zu Haus, wenn es regnet.

雨が降るならば、私たちは家にいます。

* bleiben が文全体の定動詞、regnet が副文の定動詞。wenn es regnet 全体で副詞 1 つと同じ扱い。

** es は天候、気象を示すときの主語。英語の *it* と同じ。regnen は英語の *rain*。(⇒教科書 S. 57)

Weil es dort ruhig ist, wohnt er auf dem Land.

← Er wohnt auf dem Land, weil es dort ruhig ist.

そこは静かだから、彼は田舎に住んでいる。

Wenn ich in Paris ankomme, schreibe ich dir sofort.

← Ich schreibe dir sofort, wenn ich in Paris ankomme.

私がパリに着いたら、君にすぐに手紙を書くよ。

■ 練習問題の補足

Übung 1 (S. 35)

1. Schluss machen は「(仕事などを) 終わりにする」の意味の熟語。um Mittag の um は時刻を表す用法。(⇒教科書 S. 37)

3. leihen は「〈3 格〉に〈4 格〉を貸す」、zurückgeben は「〈3 格〉に〈4 格〉を返す」。

II 間接疑問文

2 間接疑問文 (S. 35)

間接疑問文 = 副文 → 定動詞後置

◇ 英語と同じく、ドイツ語でも疑問詞を用いた**間接疑問文**をつくることができる。ただし、**間接疑問文**は名詞節であり、副文なので、その語順は**定動詞後置**となる。

◇ 使用可能な疑問詞を再掲すると、 (⇒授業第 3 回配付資料 S. 8)

疑問詞	英語	意味	格
was	what	何が、何を	1 格、4 格
wer	who	誰が	1 格
wo	where	どこで	副詞
woher	from where	どこから	副詞
wohin	to where	どこに	副詞
wann	when	いつ	副詞
warum	why	なぜ	副詞
wie	how	どのように	副詞

◇ 単なる疑問文を間接疑問文に転換すると、以下ようになる。

Was ist er von Beruf?

彼はどんな職業についているのですか (=彼は職業に関して何者ですか)。

- * 単なる疑問文 (主文) では、定動詞 ist の位置は第 2 位。
- ** von Beruf は「職業に関して」の意味。

→ Ich weiß nicht, was er von Beruf ist.

私は知らない、彼がどんな職業についているのかを。

- * 間接疑問文 (副文) では、ist の位置は定動詞後置。こちらの主文は ich weiß nicht...になる。wissen の変化形は教科書 S. 29 を参照。
- ** wissen (vt. (4 格) を知っている) の変化形や用法は、教科書 S. 29 および授業第 11 回配付資料 S. 2 を参照。

Wo wohnt Fritz jetzt?

フリッツはいまどこに住んでいるんですか。

- * 単なる疑問文 (主文) では、定動詞 wohnt の位置は第 2 位。

→ Ich weiß nicht, wo Fritz jetzt wohnt.

私は知らない、フリッツがいまどこに住んでいるのかを。

- * 間接疑問文 (副文) では、定動詞 wohnt の位置は後置。同じく主文は ich weiß nicht...になる。

◇ 前置詞と疑問代名詞の融合形や前置詞+疑問代名詞 (⇒教科書 S. 27) も、間接疑問文に変換することができる。

Womit fährst du?

君は何に乗って行くんですか。

→ Ich weiß nicht, womit du fährst.

私は知らない、君が何に乗って行くのかを。

Mit wem fährst du?

君は誰と行くんですか。

→ Ich weiß nicht, mit wem du fährst.

私は知らない、君が誰と行くのかを。

* なお、決定疑問文を間接疑問文にする場合、ob 節 (英語の if 節にあたる) を用いることになっているが、現段階では覚えなくてもよい。

Spricht er Deutsch?

→ Ich weiß nicht, ob er deutsch spricht.

■ 練習問題の補足

Übung 3

2. **welcher** は「どの、どちらの」をあらわす疑問代名詞で、名詞を修飾する (英語の *which* に相当)。前置詞と併用されることもあり、mit welchem/welcher/welchen で「どの~によって」の意味になる (変化形は *dieser* 型)。つまり、mit welcher Straßenbahn は「どの路面電車に乗って」。 (⇒教科書 S. 42)
3. an *jn./et⁴*. denken は既出、「〈4 格〉のことを考える (= *think of*)」。 (⇒教科書 S. 28)

連絡先など

教員のメールアドレス: tokan@nifty.com 授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>